

提案

受験がカギ ○ 大学受験は2020年に変わる ○ 高校受験が変われば、中学・小学も変わる

Active Learningのステップ ○ 入り口が大事ー子どもの学ぶ心に火をつける(指導の在り方の改善)
○ 概念化するチカラを、いつ・どうやって育てるのか？ 小学校からやろう！
○ 1) 調べる 2) 発表する(内輪) 3) 社会化ー議員・議会等公開発表 ここがキモ ○ 地域への貢献(contribution)
○ Active Learningの先にどう評価を置くのか？ 評価の考え方を考えていいのか？
○ 調べ学習で世界とつながる ○ 大気汚染(NO2)簡易測定を通して地域・世界とつながる。Global Partnership 平和教育
○ 放射線簡易測定器を用いて核廃棄廃絶

ESDの内容 ○ 20~30年後 持続可能社会に必要な人材は？それを考えた教育の目標・手段を
考える 教えない教育 先生も学ぶ 一先生のサポート
○ 自分の立場で何が出来るか 今やっているのはグローバルワークショップ SDGsをものさしに
自分たちのくらしとつけた課題を見だし、解決方法を考え実行する。(途中で英語の
授業と連動して英語プレゼン)
○ “湿地”という現場を使い、動植物や自然の相互のつながり、人との関わり、社会とのつな
がり、世界とのつながりなどを伝えていきたい
○ SDの典型は生物進化の歴史 進化=多様性 熱力学=省エネ・省資源

プログラム開発 ○ 団体内での指導者への周知

学校でESDと取り組むために

- 学校が「組織」としてESDにどう取り組んでいくかについて研究
 - 小中高で学びの目標・達成度を共有したい
 - 地域ごとの幼・小・中・高・大がつながって連携する
 - 年代をこえてつなく
- 総合学習内で収めるには無理があるのでは？ 保育の現場はやりやすい、成長したときに土台をつくる
 - 科目をこえて(主要教科も)使える“考え方” “テーマ”でつないでいくカリキュラムづくり(テーマ、プロジェクト的な...)
 - 教科をこえてつなく
- NPO、NGOと学校との関わり ○ NPO/NGO
 - 地域をベースとした学社一体の取組
 - 社会教育をやる
 - 社会に開かれた教育課程のためのESDコーディネーター
- 学社一体・学校の在り方
 - ESDは個人の変容・社会の変容の両面を見る
 - ESDカレンダーは加速剤として使えるのでは
 - ESDカレンダーのさらなる深化とActive Learningの活用
 - SD/SDGsを教えるカリキュラム
- それぞれの教科の目標 ESD/SDGsとの関わりをどのように結びつけて具体化していくか？
 - ESD/SDGs教育へのインセンティブを作る
 - (まずは形から...?!)学校での取組・授業すべて(or一部)がSDGsのどれに該当するかを示して見る 一子どもにも
- 地域の学校は地域をベースとした学びに不可欠。学校の統廃合をストップする。
 - 教師のフィールドワーク
 - 先生方との日常の関係構築 ー総合学習の流れと依頼の意図の理解 ー逆に学校/先生にどうまく使われるか？
 - 教員と地域
 - まず、学校の先生方と地域の方々が対話の場を持ち、地域の資源(人・自然・制度etc)と課題を知り、ESD教材をそこから創り上げることが必要
 - 先生方が、他校の先生やNPOなど様々なESD関係者と出会う場をつくる ○ 知識・経験の共有